

2.2 事業変更計画書（土地改良事業計画書）

別記様式第32号 土地改良事業計画書

う と なん ぶ

県営宇土南部地区土地改良事業計画書

（ 農業用道路 ）

宇土市
県央広域本部 宇城地域振興局

	目
第 1 章 目 的	3
第 2 章 地域及び地積	3
第 1 節 地域の所在	3
第 2 節 地 積	3
第 3 章 現 況	4
第 1 節 土地状況	4
1. 地形及び浸食の程度	4
2. 土地所有の状況	4
第 2 節 水利状況	5
1. 用水状況	5
2. 排水状況	6
第 3 節 道路状況	8
1. 道路概況	8
2. 改修を要する道路一覧表	8
第 4 節 地域農業の状況	10
第 5 節 地域環境の状況	10
第 4 章 一般計画	11
第 1 節 事業計画の要旨	11
第 2 節 営農計画	12
第 3 節 用水計画	12
1. 計画かんがい期間及び方式	12
2. 計画用水量	13
3. 水源計画	14
第 4 節 排水計画	14
1. 計画排水期間及び方式	14
2. 計画排水量	15
第 5 節 道路計画	16
第 6 節 農用地整備計画	16
1. 区画整理	16
2. 暗渠排水	17
3. 客 土	17

	次
第 7 節 老朽ため池改修計画	17
1. 洪水吐改修計画	17
2. 堤体補強計画	17
3. 取水施設改修計画	17
第 5 章 主要工事計画	18
第 1 節 用水施設	18
1. 貯 水 池	18
2. 頭 首 工	18
3. 揚 水 機	19
4. 用 水 路	20
5. 計画用水系統	20
第 2 節 排水施設	21
1. 排水水門	21
2. 排 水 機	21
3. 排 水 路	21
4. 計画排水系統	21
第 3 節 道路及び索道	23
1. 道 路	23
2. 路線配置図	24
第 4 節 農用地整備施設	25
1. 区画整理	25
2. 暗渠排水	26
3. 客 土	27
4. 除 礫	27
第 5 節 老朽ため池改修施設	28
1. 貯 水 池	28
2. 堤体補強施設	28
第 6 章 附帯工事計画	29
第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期	29
第 8 章 環境との調和への配慮	30

第 9 章 換地計画の概要	31
第 1 節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	31
第 2 節 換地区の設定	31
1. 換地区の名称、所在、面積	31
2. 換地区を設定する理由	31
第 3 節 換地計画樹立の基本方針	32
1. 従前の土地の地積の基準	32
2. 用途別予定地積	33
3. 農用地集団化の方針	34
4. 非農用地の換地方法	34
第 4 節 土地の評価及び清算の方法	35
1. 評価の方法	35
2. 清算の方法	35
第 5 節 換地計画樹立の年度計画	35
第 6 節 換地処分の時期に関する特則	35
第 10 章 事業費の総額及び内訳	36
第 11 章 効 用	37
第 12 章 関連する事業	37
第 13 章 施設の管理	38
第 14 章 現況・計画図面	39
1. 現況平面図	40
2. 変更計画平面図及び変更土地利用計画図	41
3. 主要構造図	42

第 1 章 目 的

本地区は、宇土市の西側に位置し、国道 57 号線沿いに広がる段丘地帯で、主な作物はみかんとメロンであり、既存の道路を通り、みかん集出荷所、野菜集出荷所へ集められ消費地へ出荷されているが、農業生産活動、農産物流通等の農業用の利用を主体とする基幹的農道が整備されていない為、本農道の設置により農業輸送における走行経費の節減と通作の利便性を図り、農家経営の安定化を図る。

第 2 章 地域及び地積

第 1 節 地域の所在

熊本県 宇土市 網津町

第 2 節 地 積

令和 7 年 6 月現在 (第 1 表)

地 目 市町村名	現 況 (ha)					計 画 (ha)				
	田	畑	樹園地		計	田	畑	樹園地		計
宇土市	33	9	173		215	29.9	11.4	101.3		142.6

第3章 現 況

第1節 土地状況

1. 地形及び浸食の程度

(第2表)

地 目	田						畑 ・ そ の 他								受益地標高 (m)		備 考
傾斜区分	1/1,000 未 満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以 上	計	3° 未 満	3° ～ 8°	8° ～15°			15° ～ 20°	20° 以 上	計	最高	最低	
									8° ～ 10°	10° ～ 15°	8° ～ 15°						
面積 (ha)		29.9 (33)				29.9 (33)				11.4 (10)		34.2 (58)	67.1 (114)	112.7 (182)	249 (〃)	2 (〃)	
比率 (%)		100 (〃)				100 (〃)				10.1 (5.5)		30.4 (31.9)	59.5 (62.6)	100 (〃)			

2. 土地所有の状況

令和 7 年 6 月現在 (第3表)

区 分 \ 所有別	個人有	個人共有	市町村有	その他 (県有等)		計
面 積 (ha)	142.6 (215)					142.6 (215)
受 益 者 数 (人)	400 (235)					400 (235)
筆 数 (筆)						
権 利 関 係	所有権					所有権
備 考 (所 有 者 数)						

第2節 水利状況 (該当なし)

1. 用水状況

該当なし

(1) 用水系統

該当なし

(2) 用水施設 (該当なし)

(ア) 取水方法一覧 (該当なし)

(第4表-1)

施 設 項 目	施 設 名 又は (箇 所 数)	水 利 権 (m^3/s)	慣行水利権 (m^3/s)	延べ取水量 (m^3/s)
貯 水 池				
頭 首 工				
揚 水 機				
自然取入口				
そ の 他				
計				

(イ) 改修を要する施設一覧表 (該当なし)

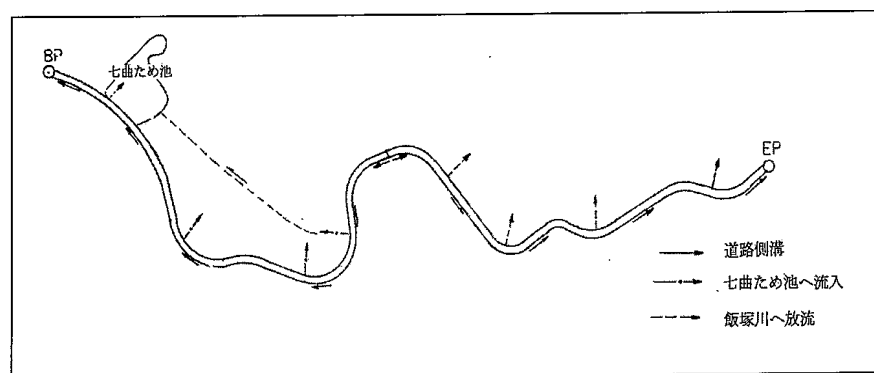
(第4表-2)

施 設 \ 項 目	施 設 名 又は (箇 所 数)	構 造	規 模 (m)	新 設 年 又 は 年 更 新	改 修 を 必 要 と す る 理 由
貯 水 池					
頭 首 工					
揚 水 機					
用 水 路					
そ の 他					

2. 排水状況

全て自然排水で、起点から延長約 L=1,219m は七曲ため池に流入し、そこから終点（延長約 L=1,200m）は、飯塚川に注いでいる。

(1) 排水系統



(2) 排水施設 (該当なし)

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-1)

施 設 / 項 目		施 設 名 又 は (箇 所 数)	排水慣行 (m ³ /s)	現況排水能力 (m ³ /s)
自然	排 水 路			
	排 水 樋 門			
機械	排 水 機			
	そ の 他			
計				

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-2)

施 設 / 項 目		施 設 名 又 は (箇 所 数)	構 造	規 模 (m)	新設年又は 更 新 年	改 修 を 必 要 と す る 理 由
自然	排 水 路					
	排 水 樋 門					
機械	排 水 機					
	そ の 他					

第3節 道路状況

1. 道路概況

本地区内の道路は、東西に走る椿原・城塚線とそれに連結する園内道路によってほ場と集落が結ばれているが、現在の道路では地形条件から急傾斜で狭小であり、さらにほ場からみかん集出荷所、野菜集出荷所等の各施設まで国道57号線を利用するため、一般車と農業者が混在し、農産物の搬出、生産資材の搬入に支障をきたしている状態である。

道路系統

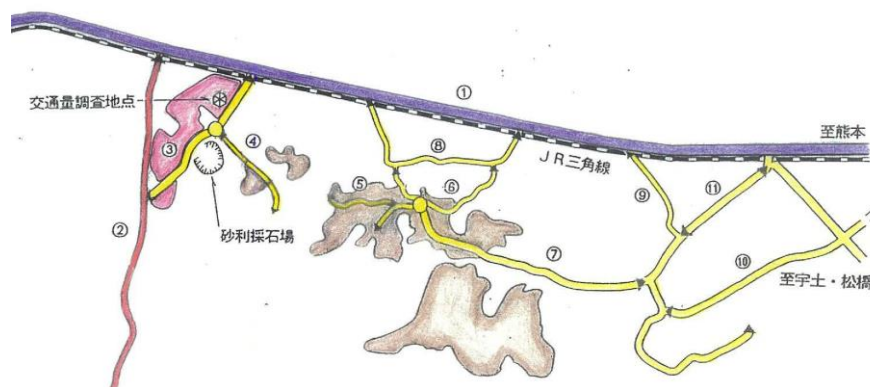
(P40) ページの現況平面図を参照

2. 改修を要する道路の一覧表

(第6表)

路 線 名	管理区分	延 長 (m)	幅 員 (m)		路面構造	改修を必要とする理由	備 考
			全 幅	有効幅			
堀迫・尾の上線	宇土市	1,422	4.0	3.5	AS	走行経費削減 通作の利便性	
椿原・城塚線	宇土市	2,907	6.5	5.5	AS		

上記以外の地区内道路については既設道路を利用する。



主要道路一覧表

No	路線名	管理区分別	延長 (m)	幅員 (m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効			
1	国道 57 号線	国		10.0	6.0	A s		
2	県道宇土不知火線	熊本県	9,600	6.0	4.5	A s	無	
3	梅崎・平原線	宇土市	2,072	7.0	5.5	A s	無	
4	堀迫・尾の上線	〃	1,422	4.0	3.5	A s	無	
5	農道	〃	2,050	2.5	2.0	A s	無	
6	伊津野・後藤線	〃	1,455	3.5	2.5	A s	無	
7	椿原・城塚線	〃	2,907	6.5	5.5	A s	無	
8	城塚・上新開線	〃	2,669	4.2	3.5	A s	無	
9	椿原・神馬線	〃	3,349	4.0	3.5	A s	無	
10	北段原線	〃	2,046	8.0	6.5	A s	無	
11	高柳・椿原線	〃	1,172	8.0	6.0	A s	無	

第4節 地域農業の状況

本地域の営農は、山間地域での温州みかんと水田部における水稻、小麦を基幹作物とする生産性の高い営農が展開されている。

第5節 地域環境の状況

(1) 植物

工事区域内及び周辺地域は、山林及び樹園地であるため、シイ、カシ、スギ、ヒノキ及びみかんなどが植生している。

(2) 動物

工事区域内及び周辺地域には、希少動物などの生息は認められないが、野生動物のイタチ、ウサギ及びタヌキなどの小動物が生息している。

(3) 景観

当該地域は、宇土市の西側に位置し、国道57号線沿いに広がる段丘及び水田地帯である。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

本地区は、宇土市の西側に位置し、山間地域での温州みかんと水田部における水稻、小麦を基幹作物とする営農が展開されている。

団地内の道路利用は、東西に走る椿原・城塚線とそれに連結する園内道路によってほ場と集落が結ばれ、生産物、生産資材の搬入搬出に利用されているが、現在の道路では地形条件から急傾斜で狭小であり、さらにほ場から各施設まで国道57号線を利用するため、一般車と農業者が混在し、農産物の搬出、生産資材の搬入に支障をきたしている状態である。このため本農道を整備し、農業経営の近代化を図るものである。

受益地としては、計画路線沿いの樹園地101.3(173)ha、水田29.9(33)ha、畑11.4(9)ha、計142.6(215)haをもって受益地とした。

路線は、格崎・平原線と椿原・城塚線を結ぶ延長2,419mを設定した。また、幅員は、全幅7.0m(車道5.5m)でI-2交通である。

第2節 営農計画

地域の特性を生かして、米、野菜（施設）、たばこ、みかん等を組み合わせた複合経営が中心で、今後もこの営農体系は変化することはないと思われるため、農地流動化対策による中核農家への農地集積で経営規模を拡大し、企業型農業の確立を図る。また、組織の強化に努め産地を確立し、組織的な技術の向上に努め生産性の向上と全体的な品質の向上により有利な流通体系を確立し、農家の収入の向上と経営の安定を図る。

第3節 用水計画 （該当なし）

1. 計画かんがい期間及び方式 （該当なし）

かんがい日数 日（ ～ ）

かんがい方式 輪換田 方式

 輪換畑 方式

2. 計画用水量 (該当なし)

(第7表-1)

系統名	項目	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m³/s)	損失率 (%)	粗用水量	
		普通期	代かき期	面積 (ha)	一平均 日当たり かん水 計画深 画 (mm/日)	平均 間断日 数 (日)	面積 (ha)	一平均 日当たり かん水 計画深 画 (mm/日)	平均 間断日 数 (日)	面積 (ha)	計画 単位 平均 用水量 (mm/日)	面積 (ha)			平均 (m³/s)	最大 (m³/s)
		計画 単位 平均 用水量 (mm/日)	計画 単位 代か き水量 (mm)													
	計															

3. 水源計画 (該当なし)

(第7表-2)

消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源 工種	備考
				水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
a (千m ³)	b (千m ³)	c=a-b (千m ³)	d=c/(1-α) (千m ³)		e (千m ³)	f (千m ³)	g= c-f (千m ³)	h= d-e (千m ³)		(千m ³)		損失率 : α

第4節 排水計画 (該当なし)

1. 計画排水期間及び方式 (該当なし)

排水日数 日 (~)

排水方式

2. 計画排水量 (該当なし)

(第8表)

項目 排水系統名	流域面積 (km ²)			全排水量 (m ³ /s)		単位排水量 (m ³ /s/km ²)		排水先の施設能力		
	地区内	地区外	合計	自然排水	機械排水	自然排水	機械排水	水路	樋門	ポンプ
計										

第5節 道路計画

1. 幅員 7.0m（有効 5.5m）

2. 舗装 アスファルト舗装

3. 接続 起点は、2級市道梅崎平原線へ接続
終点は、2級市道椿原城塚線へ接続

第6節 農用地整備計画 （該当なし）

1. 区画整理 （該当なし）

（1）区画の形状

(2) 表土扱い

2. 暗渠排水 (該当なし)

3. 客 土 (該当なし)

計画平均減水深 mm/日

計画作土厚 cm

10a 当たりの客土量 m³

第7節 老朽ため池改修計画 (該当なし)

1. 洪水吐改修計画 (該当なし)

計画洪水量

2. 堤体補強計画 (該当なし)

3. 取水施設改修計画 (該当なし)

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設 (該当なし)

1. 貯水池 (該当なし)

(第9表－1)

名称	所在地	構 造			有効貯水量 (千m ³)	かんがい 面積 (ha)	維持管理の方法	耐用年数
		型式	堰長	堰高				
			(m)	(m)				

2. 頭首工 (該当なし)

(第9表－2)

名称	所在地	取 水 河川名	構 造			取 水 量		かんがい 面積 (ha)	維持管理 の方法	耐用年数
			型式	堰長	堰高	代掻期	普通期			

3. 揚水機 (該当なし)

(第9表-3)

名称	所在地	水源及び その状況	揚 水 機			原 動 機			揚水量	かんがい 面 積	建物等 附帯施設	維持管理 の方法	耐用年数
			種類	口径 (mm)	台数	種類	動力 (kw)	台数					

4. 用水路 （該当なし）

（第9表－4）

水路名	延長 (m)	通水量 (m^3/s)	構 造	規 格	附帯構造物	維持管理の方法	耐用年数
計							

5 計画用水系統 （該当なし）

（ ） ページの計画平面図を参照

第2節 排水施設 (該当なし)

1. 排水樋門 (該当なし)

(第10表-1)

項 目 名 称	所在地	型 式	構 造	内 水 位 (m)	外 水 位 (m)	排 水 量 (m ³ /s)	備 考
計							

2. 排水機 (該当なし)

(第10表-2)

名称	所在地	原動機	実揚程 (m)	排水量 (m ³ /S)	吐き出し 河川名	流域面積 (ha)	建物等の 附帯施設	維持管理 の方法	耐用年数
		種類口径台数 種類台数能力							

3. 排水路 （該当なし）

(第10表-3)

水路名	延長 (m)	排水量 (m ³ /S)	構造	規格	附帯構造物	維持管理 の方法	耐用年数
合計							

4 計画排水系統 （該当なし）

() ページの計画平面図を参照

第3節 道 路

1. 道 路

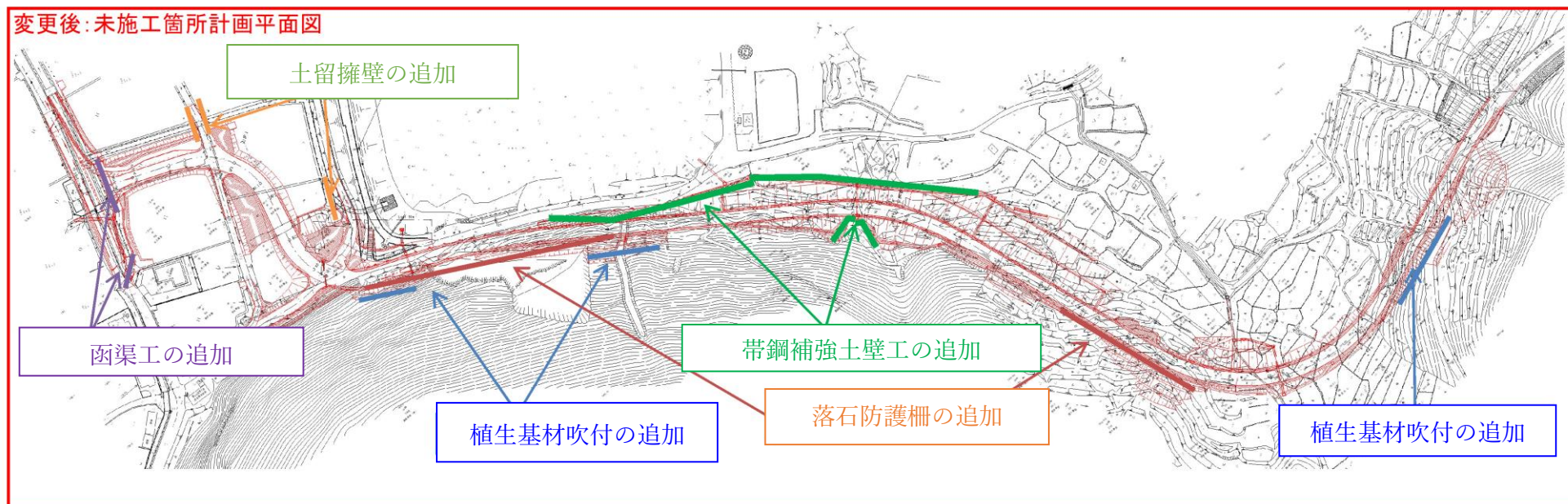
(第11表)

名称	延 長 (m)	全幅(巾員) (m)	路面構造	附 帯 構 造 物			維持管理 の方法	耐用年数
				橋梁	暗渠	その他		
宇土南部	2,419 (2,400)	7.0 (5.5)	アスファルト舗装			補強土壁 ブロック積		
計								

2. 路線配置図

(P. 41) ページの計画平面図を参照

計 画 平 面 図



第4節 農用地整備施設 (該当なし)

1. 区画整理 (該当なし)

(第12表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工 標準区画 (m)	表土扱い 面積 (ha)	備 考

2. 暗渠排水 (該当なし)

(1) 暗渠排水 (該当なし)

(第12表-2-1)

項目 区分	面積 (ha)	集水渠				排水渠						集水渠出口以下の 排水施設	備考
		勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)		

(2) 心土破碎 (該当なし)

(第12表-2-2)

項目 区分	面積 (ha)	改良深 (m)	破碎間隔 (m)	工法	備考

3. 客 土 (該当なし)

(第12表-3)

項目 区分	面積 (ha)	客土量 (m ³)	土取場土量 (m ³)	運搬距離 (km)	運搬方法	備考

4. 除 礫 (該当なし)

(第12表-4)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除 礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工 法	備考

第5節 老朽ため池改修施設 (該当なし)

1. 貯水池 (該当なし)

(第12-5表)

名 称					位 置			
堤 体	型 式	流 域 (km ²)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (m ³)	貯 水 量(千m ³)		備 考
						総貯水量	有効貯水量	
洪 水 吐	型 式	洪 水 量 (m ³ /s)	取水施設	型 式	取 水 量 (m ³ /s)	放流施設	型 式	放 流 量 (m ³ /s)

2. 堤体補強施設 (該当なし)

(1) のり面保護施設 (該当なし)

(2) 漏水防止工 (該当なし)

第 6 章 附帯工事計画 (該当なし)

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

着 手 平成 4 年 10 月 (")

完 了 令和 13 年 3 月 (令和 9 年 3 月)

第8章 環境との調和への配慮

当該地区の周辺には、シイ、カシ等の植生や、イタチ、ウサギ及びタヌキ等の小動物の生息が確認されているため、これら生態系への影響を最小限に抑えるため、施工時には最大限配慮することとする。

施工中、動物等を工事区域内で発見した場合には、捕獲したうえで生息域に放すよう配慮し、むやみに機械の騒音を発しないように努める。

大型構造物及び法面保護工は環境との調和への配慮として、極力緑化出来る構造としている。

第 9 章 換地計画の概要 (該当なし)

第 1 節 換地計画を作成する上での基本的な考え方 (該当なし)

第 2 節 換地区の設定 (該当なし)

1. 換地区の名称、所在及び面積 (該当なし)

(第 13 表 - 1)

換 地 区 名	換 地 区 の 所 在	面 積 (ha)

2. 換地区を設定する理由 (該当なし)

第 3 節 換地計画樹立の基本方針 (該当なし)

1. 従前の土地の地積の基準 (該当なし)

(第 1 3 表－ 2)

換 地 区 名	地 積 の 基 準

2. 用途別予定地積 (該当なし)

(単位: ha) (第13表-3)

換地区名		用途 (取得 予定者)	非農用地区域外に換地を定める土地											非農用地区域に換地を定める土地								機能交換に係る土地				一般 国 公 有 地	総 合 計					
			田	畑	山林・ 原野	そ の 他	通常事業施行 地域に含める 土地(令第1条 の9()書き)			計	本事業によっ て生ずる土地 改良施設用地			創 設 農 用 地	合 計	特定用途用地			異 種 目 換 地	創設非農用地					合 計			国	県	市 町 村 他	合 計	
							土 地 改 良	そ の 他	小 計		改 良 区	そ の 他	計			宅 地	そ の 他	計		農 業 施 設 用 地	必 要 施 設 用 地	公 共 用 地	宅 地 等	計								
	従前の土地																	※														
	換地																															
	従前の土地																															
	換地																															
	従前の土地																															
	換地																															
合計	従前の土地																															
	換地																															

※「異種目換地」の「従前の土地」には、異種目換地の原資となる土地の面積（内諾・同意の面積）を記入する。

3. 農用地集団化の方針 (該当なし)

(第13表-4)

区 分 換 地 区 名	地帯別、グループ別 団地の設定	個 人 別 換 地 の 方 法		
		位 置 の 選 択 方 法	1 戸 当 たり 目 標 団 地 数	区 画 畦 畔 の 取 扱 い

4. 非農用地の換地方法 (該当なし)

(第13表-5)

区 分 換 地 区 名	種 類	非農用地区域の位置の概略	面 積 (m^2)	換地の手法	換地取得予定者	そ の 他

第4節 土地の評価及び清算の方法 (該当なし)

1. 評価の方法 (該当なし)

2. 清算の方法 (該当なし)

第5節 換地計画樹立の年度計画 (該当なし)

(第13表-6)

区 分 換 地 区 名	一 時 利 用 地 の 指 定 予 定 年 度	換 地 計 画 の 決 定 予 定 年 度	換 地 処 分 予 定 年 度	備 考

第6節 換地処分の時期に関する特則 (該当なし)

第 10 章 事業費の総額及び内訳

(第 14 表－1)

単位：千円

主 要 工 事 費	2,430,573 (1,076,000)
測量及び設計費	280,443 (100,000)
用地費及び補償費	115,145 (100,000)
換 地 費	0 (0)
附 帯 工 事	0 (100,000)
工 事 雑 費	10,779 (24,000)
小 計	2,836,940 (1,400,000)
地 方 事 務 費	141,847 (70,000)
計	2,978,787 (1,470,000)

事業費の負担区分及び地元負担の基準

(第 14 表－2)

	事業費	事務費
国庫負担予定額	1,418,470 千円 (50%) (700,000 千円)	
県費負担予定額	1,134,776 千円 (40%) (560,000 千円)	141,847 千円 (100%) (70,000 千円)
市町村負担予定額	283,694 千円 (10%) (140,000 千円)	
地元負担予定額	0 千円 (0%)	
計	2,836,940 千円 (1,400,000 千円)	141,847 千円 (70,000 千円)

第 1 1 章 効 用

(第 1 5 表)

区 分 \ 項 目	年総効果（便益）額 （千円）	現況年総農業所得額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備 考
維持管理費節減効果	-71 (-157)		535 (-567)	
走行経費節減効果	196,457 (129,943)		134,509 (129,416)	
一般交通等経費削減	8,764 (989)		- (-)	
安全性向上効果	(1,407)		(-)	
更新効果	- (16,902)		- (-)	
景観保全効果	(-)		(-)	
計	205,150 (148,674)		135,044 (128,849)	(R6) 年度単価

総費用（現在価値）： 6,152,896 千円

総便益（現在価値）： 6,694,111 千円

総費用総便益比＝ 6,694,111 千円／6,152,896 千円＝1.08

第 1 2 章 関連する事業

本路線の終点から椿原・神馬線までを他部門（ふるさと農道）で施工する。

改修延長 L=2,800m

第 13 章 施設の管理

(第 16 表)

施設の種類	工事完了後の管理者	管理開始の手段	管理開始の時期
道路	宇土市	財産譲与	工事完了後

(1) 管理開始の特例

財産譲与前であっても、管理を委託された者は、ただちに管理を開始するものとする。

(2) 財産譲与・換地処分の条件

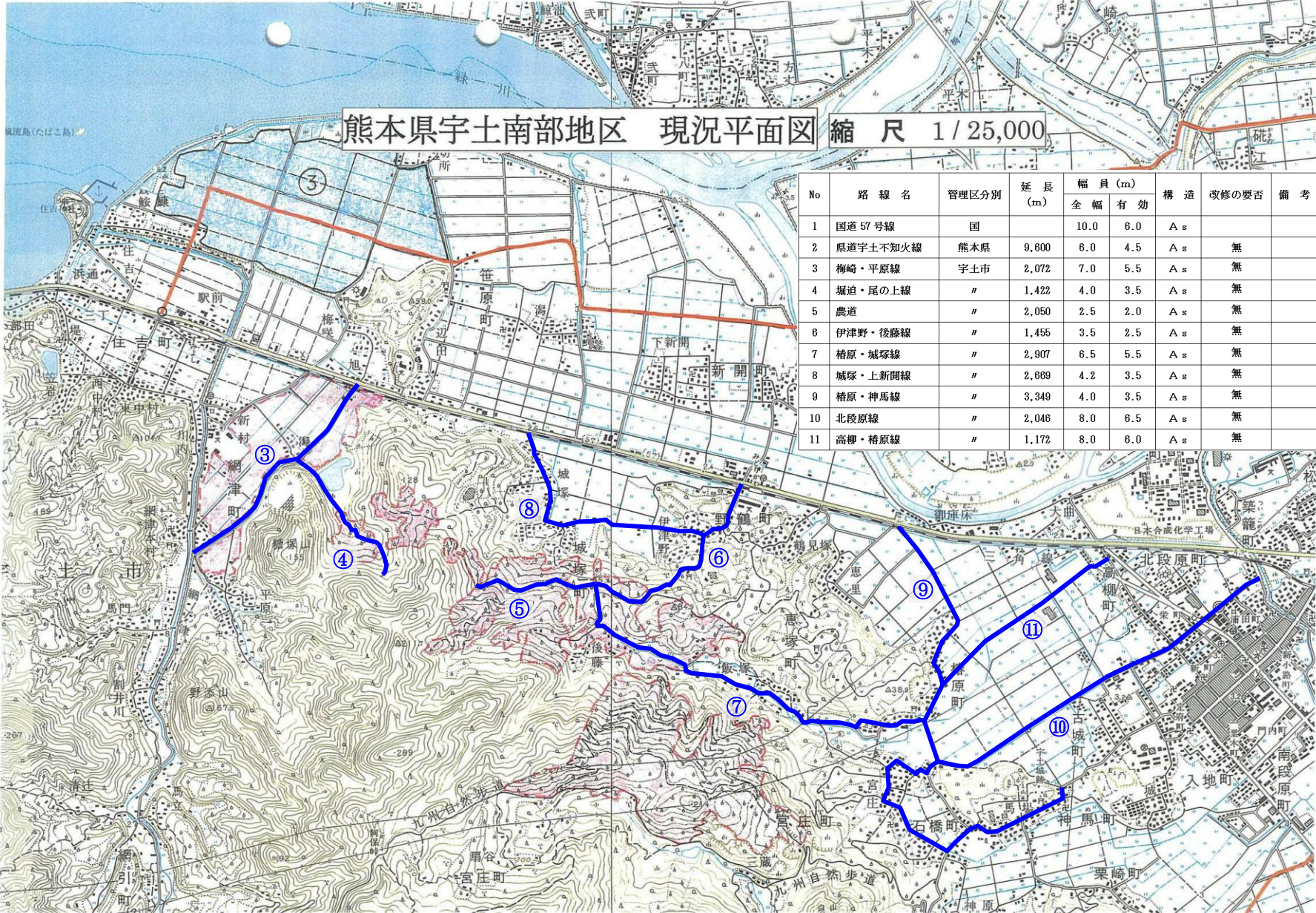
なし

第 1 4 章 現況・計画図面

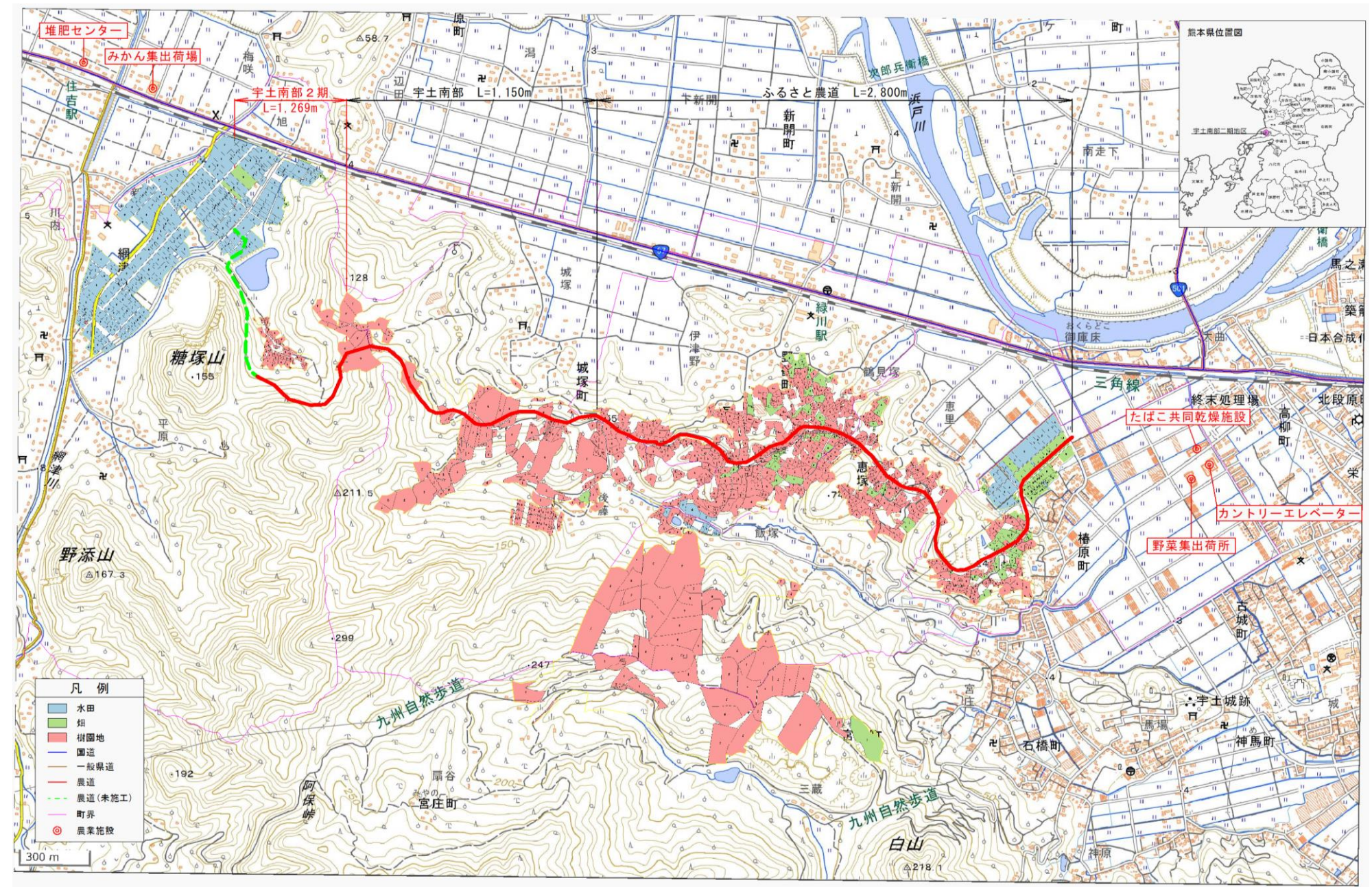
〔計画変更の場合〕

1. 現況平面図
2. 変更計画平面図及び変更土地利用計画図
3. 主要構造図

1. 現況平面図

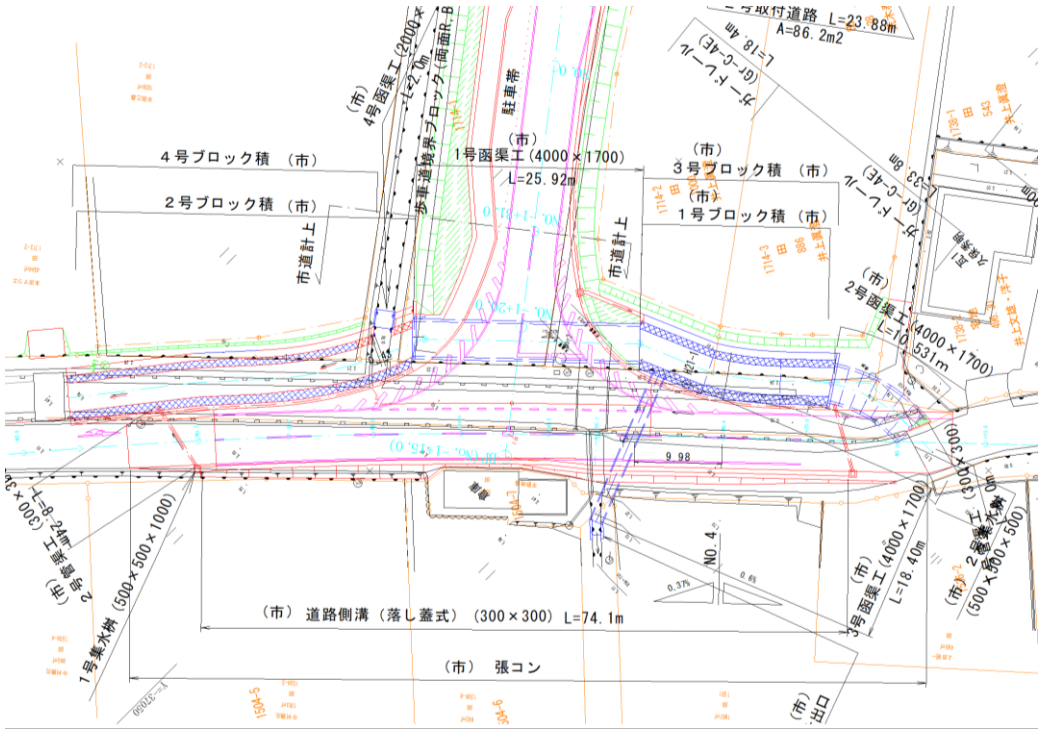


2. 変更計画平面図及び変更土地利用計画図

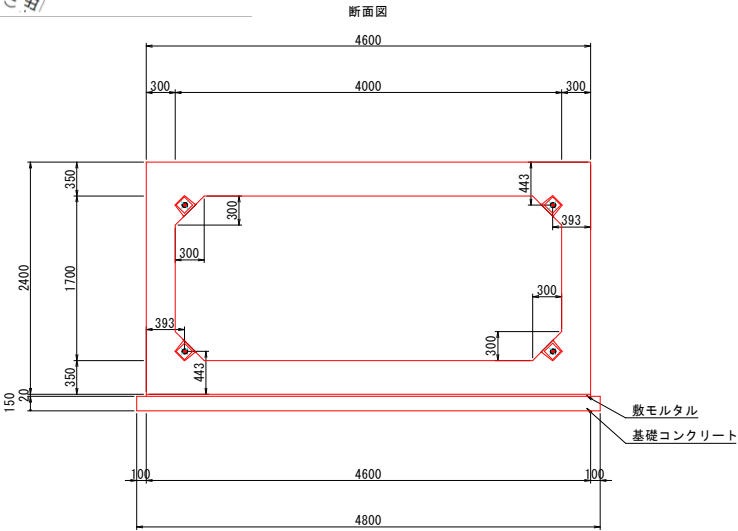
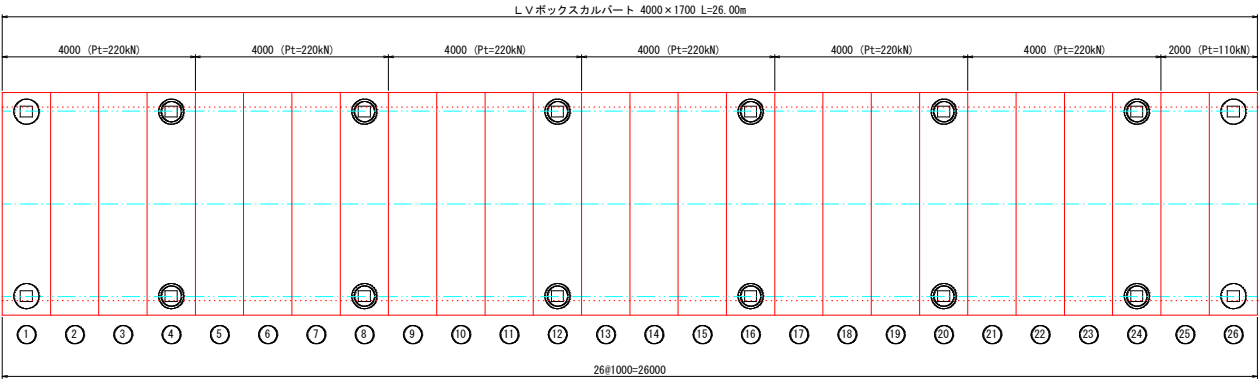


3. 主要構造図

ボックスカルバート



平面図



帶鋼補強土壁工・落石防護柵工

